

沿岸各地の水温

(5月1～5日)

日本海 12～13℃台
陸奥湾 9～11℃台

津軽海峡 10～11℃台
太平洋 6～9℃台

今回は各地域では昇温しました。平均前回差は+1.4度となっています。

昨年と比べると、日本海側で-0.0度、津軽海峡側で-0.0度、陸奥湾内で+0.9度、太平洋で-1.5度となっており、平均昨年差は-0.0度となっています。

平年と比べると、日本海でかなり高め、津軽海峡・陸奥湾でやや高め、太平洋ではやや低めとなっており、平均平年差は+0.6度となっています。

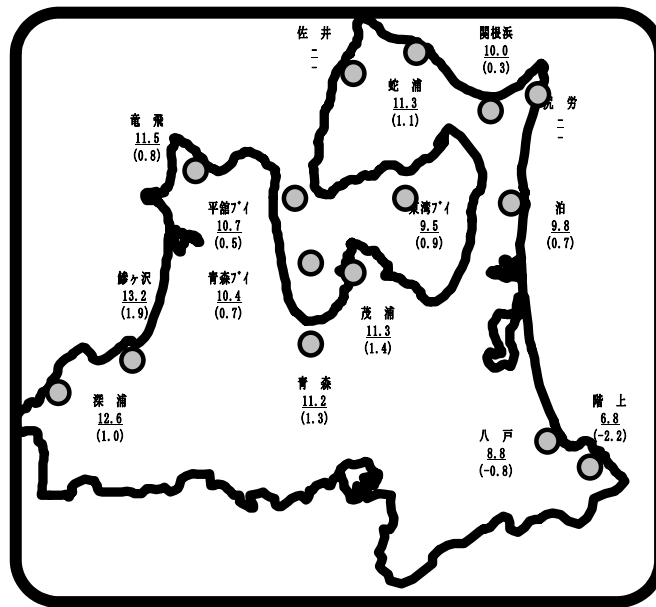


図 定地水温 (5月1～5日)
 平均値 (平年差) ブイ 1m

	水温	平年差	昨年差	前回差
深浦	12.6	+1.0	-0.0	+1.4
鮎ヶ沢	13.2	+1.9	-0.1	+1.8
龍飛	11.5	+0.8	+1.0	+0.7
佐井	-	-	-	-
青森	11.2	+1.3	+1.5	+2.5
蛇浦	11.3	+1.1	-0.7	+1.4
関根浜	10.0	+0.3	-0.4	+0.9
八戸	-	-	-	-
泊	9.8	+0.7	-0.8	+1.6
八戸	8.8	-0.8	-0.9	+1.3
階上	6.8	-2.2	-2.8	+0.4
茂浦	11.3	+1.4	+1.2	+1.6
平館ブイ	10.7	+0.5	+0.2	+1.0
青森ブイ	10.4	+0.7	+0.8	+1.7
東湾ブイ	9.5	+0.9	+1.1	+1.7
平均	10.5	+0.6	-0.0	+1.4

太平洋の海況 (5月1日～5月4日)

概況；沿岸水温は6～7℃台

○太平洋沿岸域の表面水温

6～7℃台で、前回と比べ1～2度降温しています。前年同期と比べ2～3度ほど低い水温となっています。

○津軽暖流の尻屋崎東方への張り出し

6℃等温線でみると東経141度40分付近までで、張り出しは前回より強くなっています。

○親潮系冷水の南下

6℃等温線でみると北緯38度40分付近までで、張り出しは前回と変わっていません。

日本海の海況 (5月1日～5月4日)

概況；沿岸水温は10～11℃台

○日本海沿岸域の表面水温

10～11℃台で、前回と変わっていません。前年同期と同程度の水温となっています。

◎今季スルメイカ漁況予報について

本県に来遊するスルメイカは主に秋(10月～12月)に産卵する秋季発生系群と冬(12月～翌年3月)に産卵する冬季発生系群があります。秋季発生系群は春～夏にかけて日本海を北上し、冬季発生系群はおもに夏～秋にかけて太平洋を北上します。それらが本県沖合で漁獲対象となります。

(独)日本海区水産研究所の発表では、今年のスルメイカ秋季発生系群の稚仔分布量は、昨年よりは少ないが一昨年よりは多いということです。

一方、冬季発生系群の産卵場である東シナ海での冬の水温が低かったことから、冬季発生系群のスルメイカの産卵及びふ化の条件が悪いという情報もあり、今後注視してゆく必要があります。

これらの情報や試験船開運丸の調査結果より今季のスルメイカは「本県全体の漁獲量は、昨年を下回るが一昨年を上回る。」と予想しています。

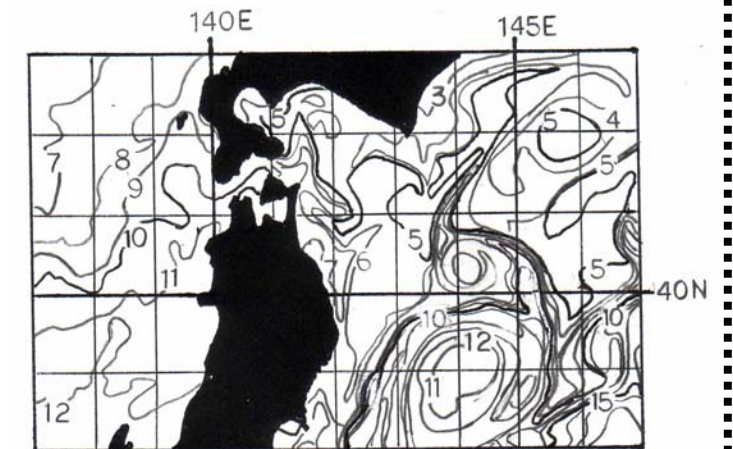
◎他県スルメイカ漁況

○沖合釣り 鳥取県 (4/16～18)

- ・沖合は氷蔵船が北九州沖～見島沖。
- ・沿岸漁場は壱岐・対馬～隠岐海峡。
- ・境港の中小型船が3日延36隻、総計2,810箱、1日1隻最高280箱、平均78箱、20入2%、25入26%、30入59%、40入13%、バラ入若干、外套長14～23cm。

○沖合釣り 鳥取県 (4/24～28)

- ・沖合は氷蔵船が北九州沖～見島沖。
- ・沿岸漁場は壱岐・対馬～山陰沖。
- ・境港の中小型船が4日延102隻、総計7,210箱、1日1隻最高400箱、平均71箱、20入8%、25入28%、40入8%、バラ入7%、外套長15～20～24cm。



資料：(社)漁業情報サービスセンター

北部太平洋海況情報 第10号 5月5日

●六ヶ所沖の水温

	No.1ブイ		No.2ブイ	
	水深4m	水深5m	水深5m	水深20m
4月26～30日	7.89	7.79	7.79	7.57
前回差	+0.08	+0.04	+0.04	+0.07

※No.1ブイは40～58N, 141～25E, No.2ブイは40～57N, 141～25E